

令和4年1月の解説（府県天気予報）

【1月の天候状況】

上旬は、低気圧が数日の周期で北海道付近を通過し、通過後は北日本中心の冬型の気圧配置となりましたが、冬型の気圧配置が緩む時期もありました。また、北日本太平洋側、東日本太平洋側と西日本太平洋側では、6日は本州の南岸を低気圧が通過したため、東京で10cmの積雪を観測するなど雪が降ったところがありましたが、その他の日は低気圧の影響を受けにくく、晴れの日が多くなりました。このため、北日本、東日本と西日本の日照時間はかなり多く、特に2日頃、8日頃に移動性高気圧に覆われた西日本日本海側は平年比162%で、統計開始以来1月上旬として1位の多照となりました。また、冬型の気圧配置が緩む時期があり、太平洋側では低気圧の影響を受けづらかったため、降水量は東日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側、東日本太平洋側と西日本で少なくなりました。5日頃までは北日本及び東日本に寒気が流れ込み、北日本及び東日本の平均気温は低くなりました。

中旬は、低気圧が北海道付近を通過し、通過後は冬型の気圧配置となることが多くなりました。このため、北日本では太平洋側も含めてまとまった雨や雪が降り、降水量は北日本でかなり多く、東日本日本海側で多くなりました。特に北日本日本海側の降水量は平年比187%で、統計開始以来1月中旬として1位の多雨となりました。また、日照時間は東日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側で少なくなりました。西日本太平洋側では、冬型の気圧配置となることが多かったため、降水量は少なくなりました。寒気は東日本以南に流れ込み、東日本、西日本と沖縄・奄美の平均気温は低く、寒気の影響で沖縄・奄美の日照時間は少なくなりました。一方、北日本は寒気の影響を受けにくく、平均気温は高くなりました。

下旬は、21日頃と31日頃は冬型の気圧配置になりましたが、その他の日は低気圧と高気圧が交互に東北地方付近を通過することが多く、冬型の気圧配置となることは多くありませんでした。また、北海道太平洋側は高気圧に覆われることが多くなりました。このため、降水量は北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と東日本太平洋側で少なくなりました。特に東日本日本海側の降水量は平年比29%で、統計開始以来1月下旬として1位の少雨となりました。日照時間は北日本と東日本日本海側で多くなりました。また、前線や低気圧が東シナ海から本州南岸を進むことが多くありました。このため、降水量は沖縄・奄美でかなり多く、西日本日本海側で多くなりました。日照時間は西日本太平洋側で少なくなりました。西日本と沖縄・奄美は寒気の影響を受けにくく、平均気温は南からの暖かい空気が流れ込んだ沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高くなりました。

【1月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より3ポイント高い86%で、明後日予報は例年値より5ポイント高い85%でした。地方別の適中率では、明日予報は、関東甲信で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道、東北、北陸、近畿、中国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.1℃小さい1.3℃で、関東甲信で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.1℃小さい1.4℃で、北陸以外の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の天気予報の利用にあたって】

3月になると、日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通過して天気が数日の周期で変わりやすくなります。また、急速に発達する低気圧によって「春の嵐」となることがあるため、突風や強風に注意が必要です。最新の天気予報を利用して、災害の防止等に役立ててください。